

# グリーン四国

No.1246  
2024年  
1月号



## 就任・年頭あいさつ 【詳細は2頁】

山々の夜明け

### 目次

・就任・年頭あいさつ	2
・令和5年度 複層林施業現地検討会	3
・野根山街道を奈半利小学生が散策	4
・利岡小学校、八面山を登山	5
・警察署・消防署との合同山岳救助訓練を実施	6
・愛媛県松野町の小学校2校で森林環境教育を実施中	7
・しまんと黒尊むらまつり	8
・西土佐産業祭に「かんたん木工教室」で参加	9
・四国森林管理局・署(所) 問い合わせ先	10



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 竹内局長就任・年頭のあいさつ

四国森林管理局長 竹内 純一



1月1日付で四国森林管理局長となりました竹内です。どうぞよろしくお願いたします。

冒頭、令和6年能登半島地震により、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。また、被災された多くの方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

皆様方には、日頃より、森林・林業行政及び国有林野事業の推進にあたり、格別の御支援、御協力を賜っておりますことに、御礼申し上げます。

さて、我が国の人工林の多くが利用期を迎えております。「伐つて、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用のサイクルを確立することにより、2050年カーボンニュートラルの実現と地域の林業・木材産業の成長産業化に貢献していくことが重要と考えています。

四国森林管理局といたしましては、森林を適正に管理し公益重視の管理経営を一層推進する中で、木材の生産や販売事業等を的確に実施し、地域の実情に応じた国有木材の安定供給に取り組んでまいります。

また、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現を目指して、伐採と造林の一貫作業、下刈りの省力化や大苗の導入、ドローンなどデジタル技術の活用による生産性の向上、シカやノウサギ等の獣害に対する捕獲や防除対策などの各種技術の実証・普及にも努めてまいります。

令和6年度は森林環境税の課税が開始され、森林環境譲与税の譲与額が約600億円に増額となる節目の年です。さらに、令和6年度税制改正では、森林整備を一層推進する観点から、森林環境譲与税の譲与基準が見直されることとなっています。国民の皆様にご負担いただくこの貴重な税を効果的に活用し、その取組の成果を積極的に示していくことが

重要となってまいります。このことを踏まえ、各種技術の普及を目指した現地検討会の開催や、森林・林業行政の推進に重要な役割を担っている市町村職員を対象とした研修による技術的支援に取り組むなど、きめ細かなサポートを行ってまいります。

また、国民の皆様ご自身の生命・生活を守り、国土強靱化にも資するため、直轄治山事業の実施、災害時に迂回路としても活用できる国有林道等の整備、市町村への人的支援の実施など、局の組織・技術・資源を活かして対応してまいります。

本年も、地域の皆様と連携しながら職員一丸となって業務に邁進してまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、被災地の皆様も1日も早く、平穏な日常生活を送ることができるようをお祈り申し上げます。あわせて、皆様方の御健康と御多幸を御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 令和5年度 複層林施業現地検討会

〈局計画課〉  
〈局資源活用課〉

森林の有する多面的機能を将来にわたって持続的に発揮させるためには、育成単層林や育成複層林などで構成する多様な健全な森林へ誘導していく必要があります。森林・林業基本計画（令和3年6月閣議決定）において、民有林における森林整備を促進する観点からも、国有林には

複層林への誘導に係る取組について先導的に進めることが期待されているところです。

複層林への誘導を推進するため、11月21日、愛媛森林管理署管内で実施した複層林施業実施箇所（愛媛県上浮穴郡久万高原町遅越山国有林38林班へ小班）において、局関係課、各署事業担当者及び当該事業を請け負った林業事業者が参加して複層林施業の実施に係る課題等についての現地検討会を開催しました。当日は愛媛署15名、局14名、各署15名、請負事業者2名、計46名が参加しました。

現地検討会では、冒頭、愛媛森林管理署長の挨拶の後、局計画課長と局資源活用課長から複層林施業の考え方や実施手順等について説明を行いました。

次に、当該事業を担当した愛媛署職員から事業の概要と課題の説明、事業者から事業実行に係る改善点や

要望が出され、それらを踏まえて、伐採区域の設定方法を中心に意見交換を行いました。

意見交換では、愛媛署から「本事業は、試験的な取組として事業実行時に請負事業者と共に帯状の伐採区域を設定することにしたが、この事業地は尾根・谷など地形が複雑で、かつ既設の作業道があるため、帯状のみの形状で伐採区域を設定することは難しく、群状の伐採区域の方が適していると判断した」とコメントがあり、また、複層林施業の実施経験のある嶺北署から「帯状で施業ができる箇所は、傾斜の緩いところに限られるので、傾斜が急なところでは群状で実施した方がよい。」とコメントがありました。さらに、四万十署から「当署では既設の作業道がない箇所でも帯状の伐採を行った。帯に合わせた作業道の線形は事業を進めていく中で当初設計から変更を重ねた。複層林施業の条件がある中で、次の伐採を見据えて伐採区域を設定することは難しかった。」といった意見が出されました。

また、請負事業者から、「当地の生産性は列状間伐とほぼ変わらない。

枝条処理に時間・労力が掛かるため、枝条移動の経費を積算に加えてほしい。」との意見が出されました。

複層林への誘導については、適した林地の選定や伐採区域の設定方法など解決すべき課題も多く、この検討会で出された意見を踏まえ、今後、制度の運用等の見直しを含め関係者との検討を重ね、複層林施業の推進を通じて多様な健全な森林づくりに繋げていきたいと思えます。





# 野根山街道を奈半利小学生が散策

〈安芸森林管理署〉

11月14日、奈半利小学校の6年生18名と保護者、引率教員17名が、「自然に親しむ体験」と「地域の歴史学習」を体験するために、野根山街道の宿屋杉から米ヶ岡生活体験学校までの約7kmのコースを4時間かけて散策しました。

奈半利小学校6年生の野根山街道散策は、毎年この時期に行われる伝統行事で安全サポートとガイドとして安芸森林管理署から5名が参加しました。

出発式では野根山街道は奈良時代から使われている奈半利町から東洋

## 宿屋杉にて

町を結ぶ全長約35kmの山道で、土佐藩の参勤交代路や中岡慎太郎の脱藩に使われた歴史ある街道であることを説明しました。散策時の注意点、著作成のガイドマップを配りスケジュール等を確認しジャンボタクシーに分乗して出発しました。

野川山の登山口でタクシーを降り、散策を開始。まず、最初に「宿屋杉」と呼ばれる大きなスギの古株まで歩きました。現在は腐朽が進み半分倒壊していま

すが、昔の写真と見比べ名前の由来と歴史を学びました。ここからは長い道のりが始まりですが、道中には「旧藩林」「笑い梅」「お茶屋場」などの旧跡があり、首席森林官外職員が説明しました。

後半に差し掛かると、狭い道や石畳の下り坂道など険しい道が多くなり、保護者の方々は歩くのに苦戦していました。児童は元気いっぱい歩いていました。ゴール地点が近づくと、道も比較的平坦で児童と保護者の差はさほど開かなくなり、全員無事に米ヶ岡生活体験学校まで着くことができました。

下山後に児童の代表から、「野根山の豊かな自然に触れることができ、ケガもなく楽しかったです。」との感想がありました。

地域の人々が自然や歴史を学び伝えるこの行事が、未永く受け継がれるよう、今後も協力していきたいと思っています。



始めは緩やか、旧藩林



まだ半分くらい

## 利岡小学校、八面山を登山

〈四万十森林管理署〉

11月16日、四万十市立利岡小学校が森林環境教育として八面山（愛媛県宇和島市）に登山しました。全校児童17名と教職員6名、四万十森林管理署8名、四万十川森林ふれあい推進センター3名の計34名が参加しました。本活動は、自然に触れることで地域の森林への愛着を育て、自然保護の大切さを学ぶことを目的として実施したものです。

午前中、八面山を少し越えた太久保山を目指して登山を行いました。登山道は、足元が悪かったり路肩が不明瞭だったりするため、児童の間に職員が入り安全に配慮するようにしました。児童は、標高1,158mという事もあり苦戦している様子でしたが、愛媛県宇和島市街と豊後水道の海洋の景観を一望できるポイントまで来ると、児童の顔も笑顔に変わりました。登頂後お昼ご飯の時間を活用し、ドローンの操作体験を実施しました。当署職員が補助に付きな

がらの簡単な操作体験ではありましたが、初めての体験に興奮し、またドローンから撮影されているカメラの映像に興味津々でした。

午後から八面山に移動し、当署川村係員の説明の元、自然の中でできるゲーム「カモフラージュゲーム」を実施しました。カモフラージュゲームは、職員が事前に用意した小道具を林内に隠してカモフラージュしているものを児童に見つけてもらうゲームです。簡単に見つけられる場合もありますが、樹木の枝に設置した昆虫のプラモデルは気づきにくいようで最後まで見つけれなかった児童もいました。最後に、自然の中では、生き物が身を守るために自分の体の色や形を周囲のものに同化させて生きている事を伝え、ゲームを終りました。

児童にはたくさん自然に触れてもらい、無事に全日程を終りました。



ドローンの操作説明



カモフラージュゲームの説明の様子



## 警察署・消防署との合同山岳救助訓練を実施

〈嶺北森林管理署〉

12月7日、嶺北森林管理署は、高知東警察署と嶺北消防署とともに、白髪山での登山者の遭難を想定し、

合同救助訓練を実施しました。白髪山は、天然ヒノキ林が広く分布しており、巨大な「根下がりヒノキ」のほか、山頂には白骨化したヒノキ林があるなど登山者が多い有名な山です。白髪山への登山口はいくつかありますが、今回は行川林道沿いの午芻谷山国有林登山口のコースを利用し訓練を行いました。

本訓練は、山岳部における救助活動の困難性の把握、山岳救助技術の向上、通信機器等を円滑に使用し、

関係機関との連携強化を迅速に図り遭難者を速やかに発見・救助することを目的として実施しました。

当日は、警察署14名、消防署8名、森林管理署14名、計36名が参加しました。警察署員や消防署員は山に不慣れなことから、当署職員により、「森林内での搜索の留意点」として林道走行時や林内歩行時の安全対策、また、携帯電波発信機の概要やドローンの活用事例などの講義を行い、その後、現地へ出発しました。

現地は風もなく暖かい中、現地本部を設置、ドローンのデモ飛行を行い、ドローン班と搜索班の二班に分かれ、遭難者から「下山途中で足を負傷して動けなくなった。」との通報を受け、ドローン班による遭難者の搜索を開始しました。

ドローン班の搜索は、遭難者が橙色の上着を着用し、白い旗を振って合図をしていたものの、発見には難航を極めました。警察署と消防署の職員はドローンを普段使用する機会が少ないためか、興味津々でしたが、

遭難者の発見には至らず、上空からの搜索の難しさを感じました。当初使用する予定であったGPSはドローンでの発見ができなかったため使用できず、遭難者からの連絡情報をもとに搜索が行われました。

緊張感をもった搜索が続けられ、歩道の分岐で足を負傷し動けなくなっている遭難者を発見し、容体・身元確認ののち、担架にて下山を開始しました。担架は、消防と警察が交代して持ち、森林管理署職員も運搬に参加する場面もありました。「頭を上」「揺らさないように」といった負傷者への配慮や、石や傾斜の共有のための声掛けが頻繁に行われ、足元が不安定な中、慎重な救助訓練となりました。

今回は、ドローンからの遭難者の発見の困難性という課題を確認した一方、各機関による通信機器の通話確認と、林道までの負傷者を担架で林道まで運搬する下山の動作確認ができました。

当署管内は、白髪山のほかに、工石山や手箱山など複数の有名な山もあり、また、登山者も多いことから、山岳救助や大規模災害に備え、今後三署の連携を密にして参りたいと考えています。



## 愛媛県松野町の小学校 2校で森林環境教育を 実施中

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

### ○概要

当センターでは愛媛県松野町の小学校2校（松野西小・松野東小）3・4年生を対象に年間計画に基づき森林環境教育を実施しています。

松野東小学校3・4年生児童計11名を対象に10月10日に「土にすむ生物の学習と水の土壌浸透実験」、松野西小学校4年生児童11名を対象に10月27日に「八面山登山体験」、11月28日に「土にすむ生物の学習と水の土壌浸透実験」を実施しました。

### ○土にすむ生物の学習

当センターのある旧西ヶ方小学校の敷地（畑・花壇）の土を使いスクリーンに試料を映せる顕微鏡で、土の中で様々な生き物が活発に動いている様子を全員で観察しました。土の中で生活している小さな生き物の存在に気づいて、その生き物たちが豊かな土を作る為に大切な役割を果たしていることを学習してもらいました。

### ○水の土壌浸透実験

「木のある山」と「木のない山」を

再現した模型による「水の土壌浸透実験」です。「木のある山」の模型は、「土にすむ生物の学習」で説明した森林の土の層について、一層目は枯れ葉等（A0（ゼロ）層）、二層目は腐葉土（A層）、三層目は、林道沿いに見える切通しの斜面（B・C層）として森林の土壌を再現したもので、「木のない山」は、各小学校の運動場の土を利用し、荒地を再現したものです。

この模型に、ジョウゴに入れた水を雨水に見立てて降らせ、時間の経過と共にどういふ変化が出るかの実験・観察をしました。実験に先立って、パネルとスポンジを使い、森林の土には落ち葉が積もって小さな隙間がたくさんあるので、まるで大きなスポンジのように降った雨を沢山吸い込んで蓄えられること、また、森林の土はフィルター役割を果たすので、ゆっくりと水が通ることにより雨水が浄化され、きれいな水となるという説明をしました。

観察を進めて行くと、荒地地を再現した「木のない山」は、早い段階で土砂が流され、斜面に置いた模型の家や車が流されたのに対し、「木のある山」は、森林に見立てた木々の模型、敷き詰められた落ち葉や腐葉土がクッションとなり、雨水による土の

侵食を防ぎ雨水を土の中に蓄えることで、時間が経過しても見た目の変化が起こりませんでした。

最後のふりかえりでは全員が、「木のある山の方に住みたい。」と答えてくれました。森林の崩壊防止機能には限界はあるものの、森林が水を多く吸収して土砂の流出を防ぐことや川の水量を調整し自然災害からくらしを守り、水をはぐくむ森林の働きについて実験を通して確認してもらえたと思います。

### ○八面山登山体験

四万十川の主な支流の目黒川や黒尊川の源流域の森林となる八面山及び大久保山の山歩きの体験では、深まりつつある秋の晴天に恵まれた中、登山道においてブナやミズメなどの木肌に触れ、樹皮の匂い土や落ち葉に触れたり、気圧の変化を体験したり、耳をすませて周囲から聞こえてくるわずかな音に聞き取るなど、五感での体験を通して森林や自然への関心を深めてもらいました。

### ○おわりに

年間複数回（5〜6回）の森林環境教育を重ねる中で、教職員へのアンケート結果、児童の感想、教員と交わす話から、森林の大切さ等の理解が大いに深まってきたと感じています。



八面山登山体験の様子（松野西小）



水の土壌浸透実験の様子（松野東小）



土にすむ生物の学習の様子（松野西小）





## しまんと黒尊むらまつり

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

11月11日、四万十市西土佐奥屋内の黒尊親水公園で、自然との共生や地域の盛り上げを図る黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催により、「しまんと黒尊むらまつり」が4年ぶりに開催され、同会議のメンバーである当センターも協力しました。

快晴、行楽日和となったこの日、地域内外から団体客など多くの方が訪れました。

### ○木工体験コーナー

当センターは、恒例の「木工体験コーナー」を設け、イスノキ製のマイ箸作りやスギ板製のクリスマスリース作り体験を実施しました。コーナーは、老若男女参加者でいっぱいとなり大盛況でした。

### ○紅葉狩りツアー

会場では、五キロ上流にある紅葉の名所「神殿橋」行きバスによる恒例の紅葉狩りツアーも行われ人気

でした。会場は終日大賑わい、笑い声が山間に響き、深まりつつある黒尊川流域での一日を満喫いただけだと思います。

### ○その他のイベント

会場に訪れた皆さんは、アユの塩焼きやツガニの姿煮、豚汁、その他黒尊川や四万十川流域で収穫された産品等を味わいながら、みのり太鼓やギター演奏、大道芸のステージイベントを楽しみました。

### ○おわりに

当センターでは、「四万十くろそん会議」のメンバーとして今後も関連イベント等に準備段階から参加協力し、黒尊地域の活性化に貢献しつつ、自然再生の重要性や木材の良さをPRしていきたいと考えています。



「木工体験コーナー」の様子





# 西土佐産業祭に 「かんたん木工教室」で参加

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

## ○概要

11月12日、四万十市西土佐用井もちいの西土佐中学校において第9回となる西土佐産業祭が四年ぶりに開催されました。

## ○かんたん木工教室

当センターは、「かんたん木工教室」としてブースを出しました。

イベント開始前には、当センターのブースに四万十市の中平市長がこられ、「産業祭を盛り上げていただきたく、よろしくお願いします。」とお声がけいただき、老若男女延べ150人以上にイスノキ製のマイ箸作りやスギ板製のクリスマスリース作りなどを楽しんでいただくことができました。

## ○その他のイベント

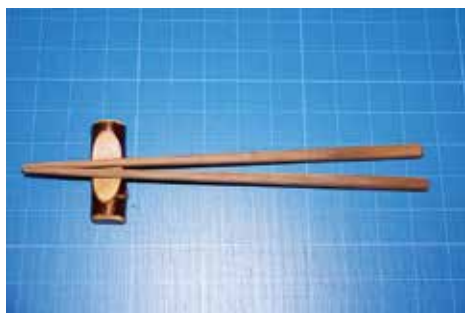
会場には四万十川流域の「うまいもの商店街として」地元グルメが多数出店し、農林水産物等の展示・即売会や漬物コンテスト、各種体験・相談ブースなども設けられ、盛り沢山の内容でした。ステージでは太鼓演奏や西土佐中学校音楽部の演奏なども行われ、終日賑わいました。

## ○おわりに

主催者発表ですが、約二千人の方々が来場したこの産業祭を通じ、地元との結びつきを深め、四国森林管理局の果たしている役割や仕事のPR、更に木材の魅力や森林の大切さを効果的に伝えられた晩秋の一日となりました。



かんたん木工教室の様子



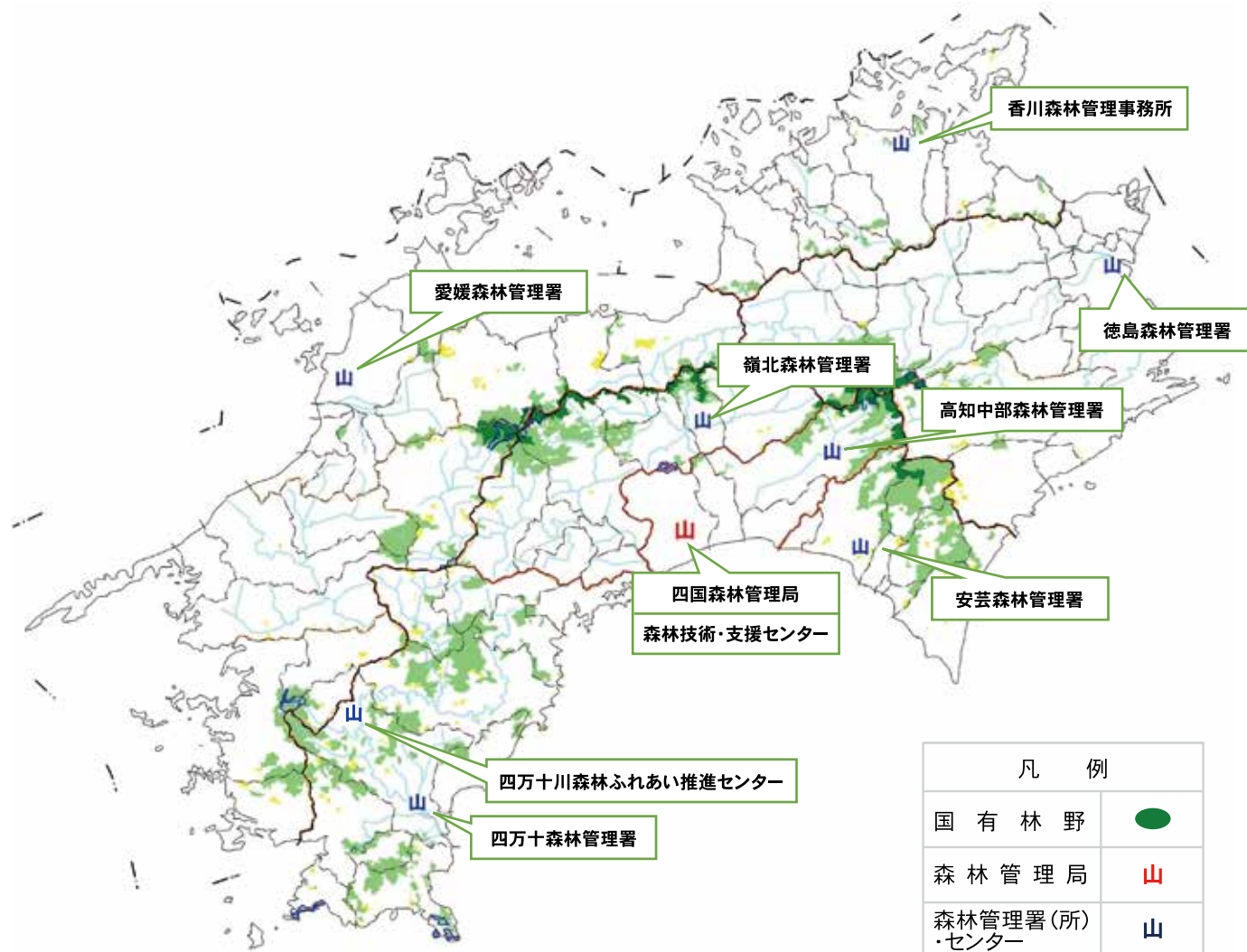
作品できたよ





# 四国森林管理局・署(所)

## 問い合わせ先



名称	郵便番号	住所	TEL	FAX
四国森林管理局	〒780-8528	高知県高知市丸ノ内 1-3-30	088-821-2210	088-821-4834
森林技術・支援センター			088-821-2250	088-821-4839
四万十川森林ふれあい推進センター	〒787-1601	高知県四万十市西土佐西ヶ方586-2	0880-31-6030	0880-31-6031
徳島森林管理署	〒771-0117	徳島県徳島市川内町鶴島 239-1	088-637-1230	088-666-1818
愛媛森林管理署	〒791-8023	愛媛県松山市朝美 2-6-32	089-924-0550	089-924-0598
四万十森林管理署	〒787-0003	高知県四万十市中村丸の内 1707-34	0880-34-3155	0880-35-5310
嶺北森林管理署	〒781-3601	高知県長岡郡本山町本山 850	0887-76-2110	0887-76-3886
高知中部森林管理署	〒781-4401	高知県香美市物部町大栃 1539	0887-58-3131	0887-58-2449
安芸森林管理署	〒784-0044	高知県安芸市川北乙 1773-6	0887-34-3145	0887-34-3147
香川森林管理事務所	〒761-8064	香川県高松市上之町 2-8-26	087-866-6622	087-867-3043